



市民の願い実現へ建設的提案で市政動かす

小児医療費助成の所得制限をなくすことは、新たな財源措置がなくても可能と提起。ごみ有料化で生まれた新たな財源を活用し、ごみボックス助成を継続

くらしを守る論戦で対案

療育・教育総合センターへの障がい児の送迎バスの存続を強く要求。就学援助制度である入学前の準備金支給の早期実施などを求めました。

日本共産党議員団は市の財政危機を招いている責任は市長にあることを厳しく追及。6年前、財政見直しについて将来にわたる不安を残すと指摘、「身の丈にあった予算編成を」と提起してきました。しかし、市長はこの指摘に背を向けたのです。

6年前に財政危機指摘

日本共産党市議団（2議席）はこの4年間、市民の立場で市政の税金の使い方をただし、くらし・福祉・教育の充実にがんばってきました。

日本共産党 2 議席



はしづめ明子
市議会議員

橋爪あきこ
【略歴】2002年初当選以来、市議4期目、副議長、監査委員、総務常任委員会委員長、都市計画審議会委員など歴任、現在は教育民生常任委員会委員長と議会運営委員会に所属。住所=逗子市桜山



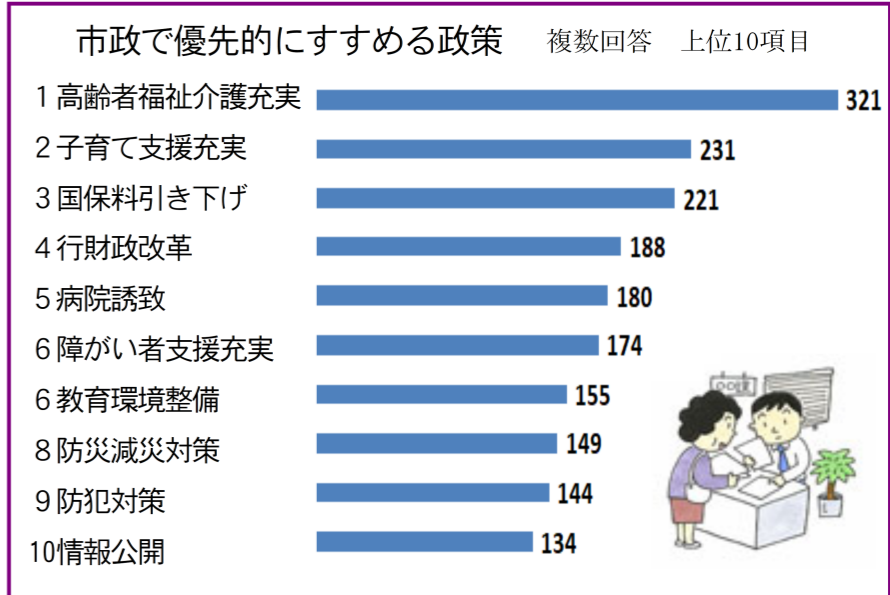
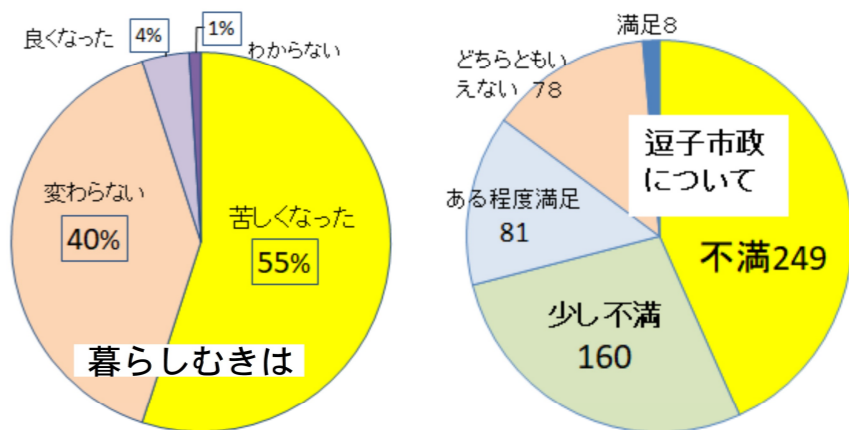
いわむろ年治
市議会議員

岩室としはる
【略歴】1990年初当選以来、市議7期目、副議長、監査委員、議会運営委員会委員長、議会改革協議会会長など歴任。現在は総務常任委員会副委員長、基地対策特別委員会、議会報編集委員会に所属。住所=逗子市逗子

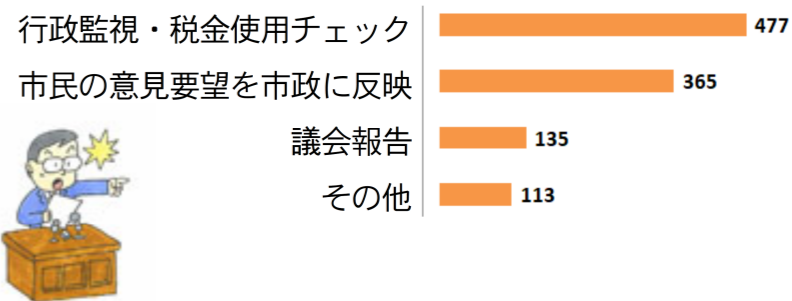
市政・市議会の動き、党議員団の活動などを「逗子民報」でお知らせしています。

市民アンケートへのご協力ありがとうございました。

みなさんをお願いした市民アンケートの中間結果（約600通）です。



市議会議員に望むもの（複数回答）



くらし・福祉・教育…みなさんと力をあわせとりくむ

小児医療費助成の後に歯止め

市長は「財政危機」を理由に小児医療費助成（現在小学6年生）を就学前までに引き下げる計画でした。党市議団は「逗子民報」でいち早く取り上げました。市民の批判がよまると、市長は引き下げ計画を撤回せざるを得ませんでした。

小学6年生までの助成対象拡充は、市民のみなさんの運動と日本共産党議員団の議会でのとりくみが力になったものです。

日本共産党議員団は4年前、「一般会計からの繰り入れを増やし、これ以上の国保料値上げはやめよ」と提案。この4年間、値上げ反対の市民の世論と日本共産党議員団の提案が力になり、市議会が市当局からの2回の値上げ条例案を否決し、値上げを抑えてきました。

国保料の値上げを抑える



中学校給食の実施
／妊婦検診助成の拡充
／市税・国保料などコンビニ納付が実現
／就学援助金の入学前支給（中学）
／公立図書館の民営化否決
／療育・教育の総合センターの開設。